



浅小HP

あさな い

令和6年5月30日（木）No.7

文責：校長 三洲 龍太

風化させない防災への意識

5月24日（金）、地震・津波被害を想定した避難訓練を行いました。昨年度、本校は、能代南中学校とともに、文部科学省委託「地域連携安全・安心推進事業」のモデル校として、救急救命講習や防災教室、逃げ地図づくり等を行い、教職員及び子どもたちの防災意識を高めてきました。

今年度は、昨年度培った防災意識を風化させることがないように、教務主任の嶋田康弘教諭が中心となって、万が一の事態に備えた避難行動を一層身に付けるとともに、自ら考えて行動できる子どもを育てることをねらいとして、訓練を行いました。このねらいを達成するために本校で行っていることが、学級ごとにイベントカードを配付して、カードに書かれてある内容に応じた行動を教師と子どもが共に考え、実行していただくことです。



封筒に入っているイベントカードには以下のようなことが書かれてあります。

- ①学級の子どもが、地震の揺れに驚いて転倒。腹部を強打して痛がっている。話しかけても曖昧な返答で、目の焦点が合わない。
- ②避難する際、学級の子どもが、「水筒の中身がなくなっちゃった」「喉が渴いた」と言っている。
- ③高台に避難している際、学級の子どもが、度重なる余震で少しずつ不安が増し、学校に戻ってトイレに行きたいと言っている。
- ④学級の子どもが、「家族が心配だから帰る」と連呼して外に出ようとしている。



訓練では、カード①を受け取った担任が、教室からインターフォンで職員室に連絡をし、職員室から男性職員に連絡をして、担架で怪我をした子どもを避難させました。

その後、津波が発生したことを想定していたため、全校で高台まで避難しました。この日はおしゃべりをせず真剣な態度で訓練に臨む子どもたちの姿に感心しました。最後に、私から次のような話をしました。どの子どもも、ねらいを達成することができた一日となりました。



もし、大きな地震が起きて、みんなで避難するとき、喉がかわいたらどうしますか？みんなから離れて水を飲みに行きますか？もし、外に出てからトイレに行きたくなったら、学校に戻ってトイレに行きますか？ぜひ、教室に戻ってから、担任の先生と一緒に、様々な場面でどのように活動すべきか考えてみてください。

地震はいつ起きるか分かりません。休みの日に起きるかもしれないし、家の人がいないときに起きるかもしれません。だから、今日、家に帰ったら、地震が起きたらどのように行動するかについて、家族で話題にしてみてくださいね。そして、これからも今日のような訓練を大事にして、「自分の命は自分で守る」ということを忘れないでください。

お知らせ

- ・昨日、保全隊の方々のご協力のもと、登校路及び花壇の植栽作業を行いました。平日にも関わらず、たくさんの保護者の皆様にも参加いただき誠にありがとうございました。今後も、農園作業があります。軍手やタオル等の準備を忘れないように、ご家庭でも確認をお願いいたします。